

しょうがくせい みな
小学生の皆さんへ

らいしゅう げつようび がつ にち そうりつしゃせい しゅくじつ とし ろうか ある せいか
来週の月曜日5月25日は、創立者聖マグダレナ・ソフィアの祝日です。いつもの年なら、廊下を歩くと聖歌

の練習が聞こえてきたり、校舎のあちこちに聖マグダレナ・ソフィアにまつわる写真等が飾られたりしていて、

お祝いのムードが高まっている頃です。聖マグダレナ・ソフィアの歌を思わず口ずさんでしまいます。

ここからは、親しみを込めてマザー・バラとお呼びすることにします。パリにあるロダン美術館は、1820年～

1907年まで聖心女子学院でした。その学校の庭に、「マザー・バラの木」と皆が呼んでいた一本の杉の木

がありました。マザーは、その木陰で子どもたちを集めてお話をしたり、一人で祈ったりするのが大好きでし

た。今はもうその木はないのですが、昨年オーストラリアのブリスベンに行った時、訪問した修道院の一室で

聖心会のロゴがついた整理棚を見つけ、不思議に思っ中を覗いてみると、「この棚は、パリのマザー・バラ

の木で作ったものです」と書かれたプレートが張り付けてありました。オーストラリアで「マザー・バラの木」

にお目にかかるとは思ってもいなかったの、とても心が熱くなり、思わず撫でてしまいました。

小林の修道院がロザリオヒルに引っ越してから、はや一年が過ぎました。引っ越したばかりのある日、オラト

リー（小さい聖堂）に座っていてふと庭の方を見ると、一本の木が目にとまりました。それ程大きくない木で

すが、まるで絵本でも見ているかのように、その木陰にマザー・バラが座って、子どもたちにお話をしている

光景が浮かんできました。以来、私は勝手にその木を「マザー・バラの木」と思っています。そして、オラトリ

ーで祈る時には、小林聖心の子もたちがその木陰に集まって、マザー・バラからお話を伺っている姿を

想像しては、楽しんでいるのです。

今年のお祝い日も、マザー・バラが皆さんに優しく語りかけ

てくださいますように。そして、こんな辛いことが起こってい

る時だけに、どんなに皆さんのことを思っていてくださるか、

そのお心に触れることができますように。

